

安全データシート

作成日 2025年 11月 12日

1. 化学品及び会社情報

製品名	デコレーションローラースタンプ デコロール
	チェック ペールオレンジ / お花 ペールオレンジ / アソートボックス
品番	IS-605DR / IS-611DR / IS-611DRMX-LE (ペールオレンジのみ)
コード	40-192 / 40-195 / 40-197 (ペールオレンジのみ)
会社名	プラス株式会社
住所	〒105-0001 東京都港区虎ノ門4-1-28虎ノ門タワーズオフィス12F
担当部門	CSR本部 品質保証部
緊急連絡電話番号	03-5860-8005
FAX番号	03-5860-8013
E-mail	env_psc@plus.co.jp
整理番号	G07K1202
推奨用途及び 使用上の制限	スタンプインキ

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性

引火性液体 : 区分4

健康に対する有害性

急性毒性 (経口) : 区分に該当しない

急性毒性 (経皮) : 区分に該当しない

急性毒性 (吸入: 気体) : 区分に該当しない

急性毒性 (吸入: 蒸気) : 区分に該当しない

急性毒性 (吸入: 粉じん、ミスト) : 区分に該当しない

皮膚腐食性/刺激性 : 分類できない

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : 区分2B

呼吸器感作性 : 分類できない

皮膚感作性 : 分類できない

生殖細胞変異原性 : 分類できない

発がん性 : 分類できない

生殖毒性 : 分類できない

標的臓器/全身毒性 (単回暴露) : 区分3 (麻酔作用、気道刺激性)

標的臓器/全身毒性 (反復暴露) : 分類できない

誤えん有害性 : 区分に該当しない

環境に対する有害性

水生環境有害性 短期 (急性) : 分類できない

水生環境有害性 長期 (慢性) : 分類できない

オゾン層への有害性 : 分類できない

GHSラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語

警告

危険有害性情報

H227 可燃性液体

H320 眼刺激

H335 呼吸器への刺激のおそれ

H336 眠気やめまいのおそれ

注意書き

【安全対策】

P210 熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざけること。ー禁煙

P261 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。

【応急処置】

P305+P351+P338 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。

次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

P312 気分が悪いときは医師に連絡すること。

P337+P313 眼の刺激が続く場合：医師の診断/手当てを受けること。

P370+P378 火災の場合：消火に泡、粉末、二酸化炭素を使用すること。

【保管】

P403+P233 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。

P403+P235 換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。

【廃棄】

P501 内容物/容器を法令で指定された処理業者にて廃棄すること。

特有の危険有害性

消防法第4類第3石油類非水溶性液体

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別 : 混合物

化学名又は一般名 : ジプロピレングリコールモノメチルエーテルと有機顔料を含有するインキ

組成・成分情報

成分名	CAS No.	含有量(wt%)	官報公示整理番号	PRTR 法
ジプロピレングリコールモノメチル エーテル (DPGME)	34590-94-8	90.0-92.0	2-426 7-97	-
ピグメントオレンジ 43	4424-06-0	0.5-1.0	5-3205	-
樹脂	-	8.0-8.2	-	-

4. 応急措置

- 吸入した場合 : ただちに新鮮な空気のある場所へ移動させ安静にし、必要に応じて医師の診断を受ける。
- 皮膚に付着した場合 : 多量の水及び石鹸で洗い流す。
水痘痛みなどの症状がでた場合には、必要に応じて医師の診断を受ける。
- 眼に入った場合 : 水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続ける。医師の手当、診断を受けること。
- 飲み込んだ場合 : 水でよく口の中を洗浄する。医師の手当、診断を受けること。
無理に吐き出させてはならない。

5. 火災時の措置

- 適切な消火剤 : 泡消火剤、粉末消火剤、二酸化炭素、噴霧水
- 使ってはならない消火剤 : 棒状の水
- 特有の危険有害性 : 火災によっては、刺激性、毒性のガスを発生させる恐れがある。
- 特有の消火方法 : 引火点が低いので消火の効果がない場合は散水する。
消火作業は風上から行う。周辺の設備に散水して冷却する。
- 消火を行う者の保護 : 適切な保護具（手袋、眼鏡、マスク）を着用する。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、
保護具及び緊急時措置 : 屋内の場合、処理が終わるまで必要に応じ換気を行う。
漏出した場合は周辺にロープを張るなどして、関係者以外の立ち入りを禁止する。
こぼれた場所は滑りやすいので注意する。
作業に際しては保護具（「8. 暴露防止及び保護措置」の項を参照）を着用する。
- 環境に対する注意事項 : 流出した製品が河川、下水等に排出しないように注意する。
- 封じ込め及び浄化方法・機材 : 少量の場合は、吸収材（おがくず・土・砂・ウエスなど）で吸着させ取除いた後、
残りをウエス、雑巾等でよく拭き取る。
大量の場合は、土・砂などの吸収剤で囲って吸着させ、スコップまたは吸引機
等で空容器に回収する。
- 二次災害の防止策 : すべての発火源を速やかに取り除く。（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）
排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意

- 取扱い
- 技術的対策 : 「8. 暴露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
- 注意事項 : 火気注意。 接触、吸入又は飲み込まないこと。目との接触を避ける。
ミスト、蒸気を吸入しないこと。取扱い後は良く手を洗うこと。
- 接触回避 : 「10. 安定性及び反応性」を参照
- 衛生対策 : 取り扱い後はよく手を洗うこと。

保管

技術的対策	: 保管場所には危険物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設ける。
混触危険物質	: 「10. 安定性及び反応性」を参照
適切な保管条件	: 酸化剤から離して保管すること。換気の良い湯所で保管すること。
安全な容器包装材料	: 金属製の石油缶やポリエチレン、ポリプロピレン製容器。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度	: 製品としての設定なし
許容濃度	: 製品としての設定なし
設備対策	: 屋内作業所での通常使用の場合は、局所排気装置を設置し換気をよくすることが望ましい。 取り扱い場所の近くに洗浄設備を設け、位置を明瞭に表示する。

保護具

呼吸器の保護具	: 状況に応じ、有機溶剤用マスク等
手の保護具	: 不浸透性保護手袋
眼、顔面の保護具	: 側板付保護眼鏡（必要によりゴーグル型又は全面保護眼鏡）
皮膚及び身体の保護具	: 帯電防止性能を有する、長袖の保護衣及び安全靴

9. 物理的及び化学的性質

物理的状态	: 液体
色	: 橙色
臭い	: 特徴的な臭気
融点／凝固点	: データなし
沸点、初留点及び沸騰範囲	: 189℃以上
可燃性	: あり
爆発下限界及び上限界、	: 下限 1.1vol% 上限 10.9vol%
可燃限界	
引火点	: 75℃（密閉式）、85℃（密閉式）
自然発火点	: 270℃
分解温度	: データなし
pH	: 非該当
動粘性率	: 粘度 400–800 mPas・s（20℃）
溶解度	: 水に不溶、低級アルコール、グリコールエーテルに可溶
蒸気圧	: DPGME 53.2 Pa（25℃）
密度（比重）	: 約 1.0
相対ガス密度	: 非該当
粒子特性	: 非該当

10. 安定性及び反応性

反応性	: 高温、高圧を加えない一般的状態では安定である。
化学的安定性	: 高温、高圧を加えない一般的状態では安定である。
危険有害反応可能性	: 強酸、強塩基、強酸化剤と反応し、火災や爆発の危険をもたらす。
避けるべき条件	: 高温
混触危険物質	: 強酸化剤、酸塩基
危険有害な分解生成物	: 燃焼により二酸化炭素及び一酸化炭素を生成する可能性。

11. 有害性情報

急性毒性	: LD50 (経口) ラット 5400mg/kg (D P GME) LD50 (経皮) ウサギ 9500mg/kg (D P GME) LC50 (吸入) データなし
皮膚腐食性・刺激性	: ウサギの皮膚に塗布した試験でD P GMEは刺激性が認められない
眼に対する重篤な 損傷性・眼刺激性	: D P GMEはウサギの眼に適用した試験において 軽度な角膜刺激性が認められた (区分2B)
呼吸器感作性又は皮膚感作性	: データなし
生殖細胞変異原性	: データなし
発がん性	: データなし
生殖毒性	: データなし
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	: データなし
特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	: データなし
誤えん有害性	: 高粘度のため区分に該当しない

12. 環境影響情報

生態毒性	: データなし
残留性・分解性	: データなし
生体蓄積性	: データなし
土壌中の移動性	: データなし
オゾン層への有害性	: 分類できない

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	: 都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物業者に処理を委託する。
汚染容器及び包装	: 容器を洗浄してリサイクルするか、廃棄する場合は内容物をできるだけ除去後に 処分する。これを含む排水は活性汚泥等の処理により清浄にしてからでないと 排出してはならない。都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物業者に処理を委託 する。

14. 輸送上の注意

国際規制

陸上輸送（ADR/RID の規定に従う）：区分に該当しない

海上輸送（IMO の規定に従う）：区分に該当しない

航空輸送（ICAO/IATA の規定に従う）：区分に該当しない

輸送又は輸送手段に関する

特別な安全対策：輸送に際しては、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。

国内規制

陸上規制情報：消防法の規定に従う

海上規制情報：区分に該当しない

海洋汚染物質：該当しない

航空規制情報：該当しない

15. 適用法令

労働安全衛生法：ラベル表示すべき危険物及び有害物
ジプロピレングリコールモノメチルエーテルが該当
名称等を通知すべき危険物および有害物
ジプロピレングリコールモノメチルエーテルが該当

化学物質管理促進法（PRTR法）：該当しない

消防法：第4類第3石油類（非水溶性）危険等級Ⅲ

船舶安全法：該当しない

航空法：該当しない

16. その他の情報

記載内容は安全にご使用頂く為の情報提供であって、保証するものではありません。

また、注意事項は通常の取扱を前提としたものなので、これらを参考にし、自らの責任において用途、用法に適した安全対策・適切な処置の実施をお願いいたします。

※本書式は、JIS Z7253：2019 要求事項に準じて作成しております。